

新たな一歩に向けて

『人間関係研究』第2号の巻頭言を書いたのがつい最近のこのように思われますが、時間の経つのは早いもので（単に加齢現象による感覚的なものにすぎないのかもしれませんが）、本年度も、『人間関係研究』を発刊する時期を迎えました。

第3号となる本年度の『人間関係研究』は、「エンパワメント」の特集を中心として構成されています。「エンパワメント」という言葉は、辞書的には、「権限を付与すること」といった限定的で硬い意味で用いられる概念です。しかし、最近ではさまざまな場面で意味が拡張されて用いることが一般化しており、南山大学人間関係研究センターにおいても拡張的な意味のものとして定着しております。そのため、本号では、学内のセンター研究員だけでなく、幅広く学外の方々からの投稿をお願いしました。本号に掲載された論稿をお読みいただければ、それぞれの筆者がそれをどのように捉えているか、さらには本センターがどのように考えているかが、お分かりいただけるものと思います。また、本号の特集を契機として、わが国における「エンパワメント」の取り組みに（いい意味での）一石が投じられるものと確信しております。

学部の新設・改組によって2000年4月にスタートした南山大学の第1次将来構想は、本年3月をもって完成を見ることとなります。それは、文学部の改組に伴って南山短期大学から移管された本センターにとっても、これまでの大学における4年間の活動を振り返る機会でもあります。他方、4月からは、大学院の新設・改編を中心とした第2次将来構想がスタートします。そのなかには、人間文化研究科教育ファシリテーション専攻の設置に見られるように、本センターにとって特に重要なものも含まれています。この意味でも、本センターの今後のあり方を再検討しなければならない時期が到来していると言えましょう。「広く学際的視野にたった人間関係研究を行うとともに、その成果を積極的に公表すること」を目的として移管された（南山大学人間関係研究センター規程第2条）本センターは、大学での4年間だけでも、幅広いネットワークに支えられて、さまざまな人々の協力・援助のもとに運営され、短期大学時代の実績を引き継ぐ形で大きな社会貢献をしてきたと自負しております。ただ、その一方で、活動分野の広がりが見えにくいこともあって、学内のセンター研究員の範囲が限定されがちであったことは否めません。第2次将来構想のスタートを目前にひかえて、学内の教育・研究への積極的関与を中心とした見直し作業を進めて、次の段階に向けた新たな一歩を踏み出したいと考えております。

なお、新たな段階を迎えるのを機会に丸山がセンター長職を離れ、4月から新センター長として津村俊充教授（人文学部心理人間学科）が就任いたします。あわせて、より一層のご支援をお願いする次第です。

南山大学人間関係研究センター長 丸山 雅 夫

